

□調査報告□

地域住民健康ケアを目的とした薬剤師活動への住民アンケート結果
—処方せん薬宅配サービスについて—

梅原 貞臣* 梅内 拓生** 寺嶋 正泰*** 野口 隆志**

抄 録

我々は、地域住民健康ケア活動の一つとして、処方せん薬宅配サービスを行っている宮城県東松島市の薬剤師の活動を取り上げ、本サービスを受けている住民30名へのアンケート調査をした。

処方せん薬宅配サービス活動に関しては、30名中、24名が「大変助かる」と回答し、本活動が良く受け入れられていることが明らかになった。また、自分の病気、健康作りの相談相手として、薬局薬剤師と回答した人数は、それぞれ2名と9名（薬局販売員も含め）と少なく、地域住民健康ケアへの薬局薬剤師の役割に関する啓発および更なる活動の拡大が必要と考えられた。しかし、「かかりつけ薬局」の必要性は、「現在持っている」と「現在持っていないが、今後持ちたい」を合わせると26名となり、薬局薬剤師が地域住民の健康ケアへ関与することを受け入れる期待は大きい。

また、本事例は、地域の強力なリーダー牽引力により、医療機関（医）、薬局（薬）、行政（官）の3者連携がなされた例であり、今後このようなモデルの一つとも考えられた。

Keywords: 薬局薬剤師, 処方せん薬宅配サービス, 地域住民健康ケア

I. はじめに

著者らは、宮城県東松島市宮戸島において「わかば薬局」が、薬局薬剤師の地域住民健康ケア活動の一環として、医療機関で処方された処方せん薬を患者に宅配サービスしている活動を、地域住民である患者がどのように受け止めているかの調査を行い、その結果を報告する。

本調査を実施した宮戸島は、宮城県東松島市に位置し、人口は約1,000であり、住民の多くが海苔栽培もしくは加工など種々の漁業を中心に行っている。宮戸クリニックは、従前近隣に存在した医療機関が経営難のため閉鎖となった際、東松島市から、警察関連、近隣の自衛隊の医療にも携わっていた一医療機関の医師

に診療所開設の依頼があり、それを受けて、2006年9月から週1回開院し、宮戸島住民の医療活動を行なっている。開院以来、宮戸クリニックに受診したことがある患者数は、島民約1,000人に対して55人である。また、薬剤師が従事する「わかば薬局」は、宮戸クリニック開設依頼を受けた医師が経営する医療機関の前で、2000年に調剤薬局として業務を開始し、5名の薬剤師と事務員数名が勤務している。主収入源は90%以上が保険調剤である。薬局がカバーしている地域としては、近隣の地域および石巻市の一部の地域の患者と比較的広域である。また、活動を行なっている薬剤師は、東松島市とは約10年間かかわりを持っており、上述の薬局に開設以来勤務している。

受付日：2008年10月4日 受理日：2009年2月16日

*国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 博士課程2007年度修了
(現職：グラクソ・スミスクライン健康保険組合)

Graduated from Doctoral Program in Health Sciences, Research Institute of Health and Welfare Sciences, Graduate School, International University of Health and Welfare in 2007 (Present office ;GalaxoSmithKline Health Insurance Society)

E-mail : sadaomi.2.umehara@gsk.com

**国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科

Research Institute of Health and Welfare Sciences, Graduate School, International University of Health and Welfare

***若葉薬局

Wakaba Pharmacy

II. 方法

薬局薬剤師が行っている処方せん薬宅配サービスを受けている患者を対象にして、どのような意識でこのサービスを受けているのか、自分の健康や薬について薬局薬剤師に望むこと等について、アンケート調査を実施した。調査方法としては、調査対象者に高齢者が多く、内容に関して詳細な説明が必要であると予想されたため、当初は聞き取り方法を試みたが、一度に長時間を要し、また対象者も質問が複雑、長時間に及ぶと、質問に答えなくなることもあったため、対象者がアンケートをじっくり読んでから後日回収という方式に変更した。

アンケートの調査期間は2007年5月中旬～6月末の6週間にわたって実施した。なお、本アンケートは、国際医療福祉大学倫理委員会承認のもとに実施した。

アンケートの調査項目を以下に示す。

1. アンケート回答者の背景
 - 1) 性別
 - 2) 年齢
 - ①40歳未満, ②40歳～50歳未満, ③50歳～60歳未満, ④60歳～70歳未満, ⑤70歳～80歳未満, ⑥80歳以上
 - 3) アンケート回答者
 - ①わかば薬局の宅配サービスを患者として受けている本人, ②宅配サービスを受けている患者の家族, ③どちらともいえない
2. 薬局の医療用医薬品配達という活動について
 - 1) 処方された薬を、自宅まで持ってきてくれることについての感想
 - ①大変助かる, ②配達してもらうのは助かるが、家を留守に出来ずに困る, ③なんとも思わない, ④よく分からない
 - 2) 1)の質問で、「大変助かる」とした回答者に、その理由(複数回答可)
 - ①薬をもらう人が、体が不自由で一人にさせられないので助かる, ②忙しいときに、病院で待っていないで良い, ③在宅訪問の薬剤師に気軽に相談ができる, ④医療機関や医師には、相談しにくいから, ⑤その他
- 3) 今後も続けて配達サービスの継続の要望
 - ①要望する, ②要望しない, ③どちらともいえない, ④その他
3. 薬局や薬剤師の人に望むこと
 - 1) 体の具合が悪い時に(かぜや肩こりなど自分で症状が判断できる場合)、どうするか
 - ①薬局・薬店に行って相談し、必要によって薬を買う, ②病院に行って、医師に診てもらう, ③症状によって薬局・薬店あるいは病院に行くかを決める, ④しばらく様子を見る, ⑤良く分からない
 - 2) 1)で、病院に行くと答えた回答者に病院を優先的に行く理由
 - ①医師の方を信用しているから, ②医師の出してくれるくすりの方が良く効くから, ③薬局で買う薬は効かないから, ④どうせ病院に行くから, ⑤病院の薬代が安いから, ⑥その他
 - 3) 普段から気軽に相談できる“かかりつけ薬局”を持っているか
 - ①持っている, ②持っていないが、今後持ちたい, ③今後も持ちたいとは思わない
 - 4) 3)の質問で普段から気軽に相談できる“かかりつけ薬局”を「持っていないが、今後持ちたい」か、「今後も持ちたいと思わない」と答えた回答者に、その理由(複数回答可)
 - ①満足する説明をしてくれる薬局が見あたらないから, ②薬局の雰囲気が相談しにくいから, ③薬局・薬店が近くになくいるから, ④病気や健康のことは医師に相談するから, ⑤薬局は薬を渡してくれるだけのところと思っているから, ⑥その他
 - 5) 薬局薬剤師に今後やってもらいたいこと(複数回答可)
 - ①24時間体制による薬の相談・薬の情報提供, ②在宅医療で、訪問してお薬の飲み方や管理方法の指導, ③薬の使い方や効き方について、もっと詳しい

情報提供, ④中毒・誤飲の相談, ⑤健康相談, ⑥必要な場合の専門病院・専門医紹介, ⑦糖尿病や高血圧者への食事指導, ⑧病気になるような生活指導, ⑨薬物乱用防止に対する社会活動, ⑩健康食品やサプリメントの相談, ⑪その他

4. 自分の健康や薬のこと

1) 健康づくりのために自分に適した運動や食事の内容を知りたいときの知る手段

①テレビやラジオ, ②新聞・雑誌, ③医師や看護師, ④薬剤師, ⑤インターネット, ⑥その他, ⑦身近にない

2) 生活習慣を変えるために, 医師や薬剤師から指導してもらえば, 健康のために生活習慣を変えることができる可能性

①可能, ②不可能と思う, ③分からない, ④その他

3) 生活習慣を変えるときに相談相手で望ましい人

①医師, ②薬剤師, ③薬局販売員, ④家族, ⑤その他

4) 軽い病気や怪我の手当てのため, 薬局に売っている薬などを使って自分の健康を自分で守るというセルフメディケーションについての重要度

①大事なことと思う, ②大事なことと思わない, ③良く分からない

5) セルフメディケーション実施にあたって, 必要な事項 (複数回答可)

①もっと効く薬, ②小児・高齢者に使いやすい薬, ③薬の値段がもっと安くなること, ④薬局・薬店で気軽に相談できるようになること, ⑤学校や市民団体での健康管理に関する指導, ⑥薬についてのより多くの情報, ⑦その他

6) 薬について一番知りたい事項

①効能・効果, ②副作用, ③正しい使い方, ④価格, ⑤その他

7) 薬局などで売っている薬でもコンビニなどでも買えるものがあるが, 薬をどこで買うか

①相談して使いたいので, 薬局・薬店を利用する, ②コンビニ, ③決めていない, ④分からない, ⑤その他

III. 結果

アンケート実施対象 30 名全てから回答を入手した。活動を行っている薬剤師の処方せん薬宅配サービスを今まで1回でも受けたことがある患者数は44名であるが, 全員にアンケートが実施できなかった理由は, アンケートを取る目的を理解できない, 現在入院して本人不在などであり, さらに本調査期間にわたり, 宅配サービス時の勤務時間内に, アンケート趣旨説明, 実施および回収が可能な1回の人数が5~6名であり, アンケート実施患者数は妥当なものと考えた。

1) アンケート回答者の背景

アンケート対象者の30例の背景を表1に示した。最高年齢は89歳であり, アンケート回答者はほとんどが本人回答であった。また, 回収方法としては, 薬剤師による聞き取りが4名, アンケート内容説明後手交し, 後に訪問して回収したのが25名, 1名は回答者が薬局にアンケート結果を持参した。

表1 アンケート対象者の背景および回答方法・回収方法

項目	分類項目	数	%
性別	男	12	40
	女	18	60
年齢	50歳~60歳未満	5	17
	60歳~70歳未満	8	27
	70歳~80歳未満	13	43
	80歳以上	4(~89)	13
アンケート回答者	本人	25	83
	家族	4	13
	その他	1	3
アンケート回収方法	聞き取り	4	13
	後に回収	25	83
	持参	1	3

2) 薬局の処方せん薬宅配サービス活動

アンケートの回答結果を表2に示した。宅配サービスに関しては, 大変助かるが30名中24名と, 多くを占めた。また, その理由としては, 「忙しいときに, 病院で待っていないといいから」が16名, 「在宅訪問の薬剤師に気楽に相談できるから」が12名と多かった。なお, その他の回答1名では, 「薬局で薬をもらうと説

表2 薬局の活動について

質問	回答	回答数	%
わかば薬局が処方されたお薬を、自宅まで持ってきてくれることについて、どう思いますか？	大変助かる	24	80
	配達してもらうのは助かるが、家を留守に出来ずに困る	6	20
	なんとも思わない	0	0
	よく分からない	0	0
「大変助かる」とお答えになった方にお聞きします。なぜ便利だと思いますか？ (複数回答可)	薬をもらう人が、体が不自由で一人にさせられないので	0	0
	忙しいときに、病院で待っていないから	16	53
	在宅訪問の薬剤師に気楽に相談ができるから	12	40
	病院やお医者さんには、相談しにくいから	1	3
	その他(*1)	2	7
	未回答	3	10
今後も続けてもってきてもらいたいと思いますか？	はい	28	93
	いいえ	0	0
	どちらともいえない	1	3
	その他	0	0
	未回答	1	3

(*1) : 1名；薬局で薬をもらうと説明されるから、外の待っている人に私の悪いところがばれるから、自宅まで持ってきてもらうと助かります。

明されるので、外の待っている人に私の悪いところがばれるから」という回答が得られた。さらに、「今後もこのサービスを続けてもらいたいと思いますか？」の問いに対しては、28名が肯定の回答であった。

3) 薬局や薬剤師の人に望むこと

アンケートの回答結果を表3に示した。まず、体の具合が悪い時にどうしているかという質問に対して、30名の回答者中21名が「病院に行って、医師に診てもらう」と回答、「しばらく様子を見る」7名、「症状によって薬局・薬店あるいは病院に行くかを決める」が5名、「薬局・薬店に行って相談し、必要によってお薬を買う」と回答したのはわずか2名であった。また、前問で、「病院に行く」と回答した中でその理由を尋ねたところ、「医師処方の薬の方が効くから」と回答した人が13名と一番多かった。次に、「普段から気楽に相談できる“かかりつけ薬局”を持っていますか」という質問に対しては、「持っている」が8名、「持っていないが、今後持ちたい」は18名と、あわせて26名が、「かかりつけ薬局」に肯定的な意見であった。また、現在“かかりつけ薬局”を持っていない理由としては、「薬局・薬店が近くにないから」が10名で最も多く、

「病気や健康のことは医師に相談するから」、「薬局は薬を渡してくれるだけのところと思っているから」という答えはそれぞれ7名であった。また、「薬局の薬剤師さんに今後やってもらいたいことは何ですか」の質問に関しては、「薬の使い方や利き方について、もっと詳しい情報提供」が最も多く14名、「必要な場合の専門病院・専門医紹介」が10名と2番目に多かった。

4) 自分の健康や薬のこと

アンケート結果を表4に示した。健康づくりのために自分に適した運動や食事の内容を知りたいときの知る手段としては、「医師や看護師」の回答数が最も多く13名、ついで「テレビやラジオ」6名、これに「新聞・雑誌」の3名を加えると9名がマスメディアで、「薬剤師」は5名であった。自分の生活習慣を医師や薬剤師からの指導があれば変えられるという回答をした対象者の数は23名と多く、その相談相手としては医師が23名、薬剤師・薬局販売員は9名と家族5名より多かった。次に、セルフメディケーションについての感想をたずねたところ、「大事なことと思う」が15名と多かったが、「良く分からない」との回答数も11名と多かった。次に、セルフメディケーションにとって必要

表3 薬局や薬剤師の人に望むこと

質問	回答	回答数	%
体の具合が悪いとき(かぜや肩こりなど自分で症状が判断できる場合)、どうしていますか?	薬局・薬店に行って相談し、必要によってお薬を買う	2	7
	病院に行って、医師に診てもらう	21	70
	症状によって薬局・薬店あるいは病院に行くかを決める	5	17
	しばらく様子を見る	7	23
	良く分からない	1	3
病院に行くと答えた方に聞きます。なぜ、病院にいきますか?	お医者さんの方を信用しているから	11	37
	お医者さんの出してくれるくすりの方が良く効くから	13	43
	薬局で買う薬は効かないから	0	0
	どうせ病院に行くから	4	13
	薬代が安いから	1	3
	その他(*1)	2	7
	未回答	5	17
普段から気軽に相談できる“かかりつけ薬局”をお持ちですか?	持っている	8	27
	持っていないが、今後持ちたい	18	60
	今後も持ちたいとは思わない	2	7
	未回答	2	7
普段から気軽に相談できる“かかりつけ薬局”を「持っていないが、今後持ちたい」か「今後も持ちたいと思わない」とお答えした方に質問です。その理由はなんですか?	満足する説明をしてくれる薬局が見あたらないから	2	7
	薬局の雰囲気相談しにくいから	0	0
	薬局・薬店が近くにないから	10	33
	病気や健康のことは医師に相談するから	7	23
	薬局は薬を渡してくれるだけのところと思っているから	7	23
	その他	0	0
	未回答	6	20
薬局の薬剤師さんに今後やってもらいたいことって何ですか?	24時間体制による薬の相談・薬の情報提供	2	7
	在宅医療で、訪問してお薬の飲み方や管理方法の指導	5	7
	薬の使い方や効き方について、もっと詳しい情報提供	14	47
	中毒・誤飲の相談	0	0
	健康相談	3	10
	必要な場合の専門病院・専門医紹介	10	33
	糖尿病や高血圧者への食事指導	2	7
	病気にならないような生活指導	3	10
	薬物乱用防止に対する社会活動	1	3
	健康食品やサプリメントの相談	2	7
	その他(*2)	3	10
	未回答	2	7

(*1) : 1名 ; 検診データ・血圧測定記録等定期的に提示しているから、1名 ; そこまで考えていません

(*2) : 2名 ; 今のところ特になし、1名 ; 薬を持ってきてくれればよい

なこととして、「薬の値段が安くなること」が12名と最も多く、「小児・高齢者に使いやすい薬」7名、「もっと利く薬」、「薬局・薬店で気軽に相談できるようになること」が各6名であり、多い回答であった。「薬について一番知りたいこと」としては、「効能・効果」12

名、「副作用」10名、「正しい使い方」6名が多い回答であり、「薬を買うところ」では「相談して使いたいの」で、薬局・薬店を利用する」が21名、「決めていない」5名で、「コンビニ」と回答したものはなかった。

表4 ご自分の健康や薬のこと

質問	回答	回答数	%
健康づくりのために自分に適した運動や食事の内容を知りたいとき、どうしますか？	テレビやラジオ	6	20
	新聞・雑誌	3	10
	医師や看護師	13	43
	薬剤師	5	17
	インターネット	0	0
	その他(*1)	7	23
	身近にいない	2	7
生活習慣を変えるのは難しいと思いますが、お医者さんや薬剤師さんから指導してもらえば、健康のために生活習慣を変えることができますか？	できると思う	23	77
	できないと思う	0	0
	分からない	5	17
	その他	1	3
	未回答	1	3
そのときの相談相手は誰がよいですか？	医師	23	77
	薬剤師	8	27
	薬局販売員	1	3
	家族	5	17
	その他(*2)	1	3
	未回答	1	3
軽い病気や怪我の手当てのため、薬局に売っている薬などを使って自分の健康を自分で守るということをセルフメディケーションといいます。このことをどう思いますか？	大事なことと思う	15	50
	大事なことと思わない	2	7
	良く分からない	11	37
	未回答	2	7
セルフメディケーションにとって、必要だと思うことは何ですか？	もっと効くお薬	6	20
	小児・高齢者に使いやすいお薬	7	23
	薬の値段がもっと安くなること	12	40
	薬局・薬店で気軽に相談できるようになること	6	20
	学校や市民団体での健康管理に関する指導	3	10
	お薬についてのより多くの情報	3	10
	その他(*3)	3	10
	未回答	2	7
あなたは、薬について何が一番知りたいですか？	効能・効果	12	40
	副作用	10	33
	正しい使い方	6	20
	価格	2	7
	その他(*4)	1	3
	未回答	1	3
薬局などで売っている薬でもコンビニなどでも買えるものがありますが、あなたは薬をどこで買いますか？	相談して使いたいので、薬局・薬店を利用する	21	70
	コンビニ	0	0
	決めていない	5	17
	分からない	0	0
	その他(*5)	2	7
	未回答	2	7

(*1) : 3名；病気のことを気にしたことがない，1名；経験者の話，1名；運動教室
 (*2) : 自分は健康なので，生活習慣を変える必要はない，
 (*3) : 2名；よく分からない
 (*4) : お医者さんの処方する薬を信用して飲んでるので，特にないとのこと
 (*5) : 2名；薬を買ったことがない

IV. 考察

1. 住民アンケートに関する考察

アンケート調査項目の最初の大項目である、「薬局の活動について」は、当然のことではあるが、「大変助かる」が24名と多数を占め、本サービスが地域住民に受け入れられている結果であった。その理由としては、「忙しいときに、病院で待っていないから」が最も多く、処方せん薬受け取りが自分の思うような時間に出来ないことに不満があることが伺えた。また、アンケート実施者に対する気遣いもあると考えられるが、薬剤師に相談したいことも、「在宅訪問の薬剤師に気軽に相談できるから」という理由が次に多かったことも、宮戸クリニックの医療活動における薬剤師の存在が住民に認識されていることを裏付けている結果であった。なお、「その他」の回答として得られた、「薬局で薬をもらおうと説明されるから、外の待っている人に私の悪いところがばれるから、自宅まで持ってきてもらおうと助かります。」という意見も、今後の配達サービスの利点を挙げるにあたって、1名ではあるが参考になると考えられた。今後も続けてもらいたいかという質問では、当然であるが「はい」という肯定的な回答が得られた。

次に、「薬局薬剤師の人に望むこと」の項目を質問した。まず、「体の具合が悪いときにどうするか」に関しては、「病気は医師に相談するもの」という認識であり、「薬剤師に相談」はわずか2名、「症状によって薬局に行くか病院に行くかを定める」という回答を加えても7名と少数であった。また、「普段気軽に相談できる“かかりつけ薬局”を持っているか」という質問に対して、「現在持っている」との回答は30名中8名(27%)であった。この割合は、松井らでは57%(松井ら2004)、山田らは66.1%(山田ら2005)としているのに比較して少ない。住民の居住地域と薬局との地理的な関係も考慮しなければならないが、薬局の地域住民への活動がまだ不十分であり、薬剤師の地域住民健康ケアへの果たすべき役割に関して、宮戸島住民の認識が少ないことも示している。しかし、「現在持っていないが、今後持ちたい」との回答が18名と多く、「持ちたいと

は思わない」が2名であることから、薬剤師が地域住民の健康ケアへ関与することを受け入れる期待が多いことより、地域住民健康ケアとしての“かかりつけ薬局”ができる土壌はあると考えられた。また、「現在“かかりつけ薬局”を持っていない」あるいは「持ちたくない」理由として挙げられている、「病気や健康のことは医師に相談するから」7名、「薬局は薬を渡してくれるところと思っているから」7名、合計14名の回答や、「今後薬局の薬剤師に行なって欲しいこと」としての選択肢で、「薬の使い方や効き方について、もっと詳しい情報提供」14名が多かったことなどから、まだ、薬局薬剤師に関して、薬中心の役割の期待しか持っていないことが類推できる。

最後の「自分の健康や薬のこと」について、自分の健康管理は、やはり医師や看護師を相談相手とするとの回答が多く、身近な健康管理の相談相手としての薬剤師とするとの回答は少数であった。この傾向は、「生活習慣を変えるときに相談相手」としての薬剤師は医師より少数派であることと一致しており、地域住民の健康管理に薬剤師も関与しているという認識を持ってもらうには、更なる啓発活動を薬剤師が行わなければならないことが推察される。

以上のことより、今回のアンケートでは、薬局薬剤師の処方せん薬宅配サービスは、宮戸島住民によく受け入れられているが、地域住民健康ケア活動の一端を担うのは薬局薬剤師であるという認識は十分ではない。今後、薬剤師自身の教育の充実を行なって、これらの宅配サービスをさらに発展させて、地域住民に対して疾患予防教育などの啓発活動を、種々の機会を設けて行なうなどの必要性が考えられる。

2. 宮戸島地域住民への薬剤師活動の意味について

著者らが報告した宮戸島での地域住民健康ケア活動の特徴は、民間の医療機関と、薬局と東松島市の行政との緊密な連携があることである。

地域住民健康ケアのシステムを確立するには、住民が、「健康で生きている自分は、地域でのお互いの交流、交換、助け合いをすることが大事であり、この関係の

中で始めて自分の生活が成り立っている」という認識を持つという前提が大切である。この住民の意識構築のためには、著者らは、行政、医療機関、薬局それぞれが単独ではなく、3者協力のシステム(図1)を構築する必要があると考えている。アンケート調査項目にはないが、宮戸島では、外来診療と訪問薬剤師サービスを通して、医療スタッフや薬剤師と住民がお互いに短韻文(俳句、短歌、自由詩)で健康や生活感情を詠作表現し、それに対する意見交換をして、地域文化や健康への価値意識を相互に啓発し合っている。この活動は、図1においては、医療機関と薬局が共同して地域住民健康ケアに貢献している活動に当てはまる。本報告の活動は、一医療機関の経営者が、長年地域住民にかけて来た善意・努力・信頼の構築という土台があって成立していることが、大きな原動力である。本報告のアンケート対象者の診療を行なっている医療機関経営者は、東松島市の要請を受けて宮戸島クリニックを開設した経緯もある。この関係は、図1における行政と医療機関の共同による地域住民健康ケアの成果である。地域での強力なリーダーが(本報告の場合は医療機関の経営者であるが)地域によっては、薬局薬剤師が長年同じ地域で業務を行っていることは多々あることである。その意味で、地域のリーダーである場合も想定され、医療機関・薬局・行政(病薬官)の3者連携のリーダーとして、薬局薬剤師が活動を牽引して行くことも可能である。地域住民が自由に健康に関する情報・意見交換する、「かかりつけ薬局」の場所を提供できる薬局薬剤師が、地域住民の健康ケアのリーダーになるのだという自覚を持つことは極めて重要であると考えられる。

V. 結論

我々は、地域住民健康ケア活動の一つとして、処方せん薬宅配サービスを行っている宮城県東松島市の薬剤師の活動を取り上げ、本サービスを受けている住民30名へのアンケート調査をした。

(地域住民の健康に関与する3因子)

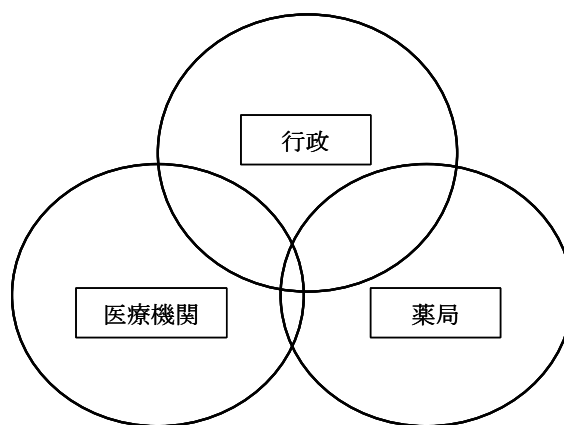


図1 官医薬による地域住民健康ケア・モデル

その結果、処方せん薬宅配サービス活動に関しては、30名中、24名が「大変助かる」と回答し、本活動が良く受け入れられていることが明かになった。また、自分の病気、健康作りの相談相手として、薬局薬剤師と回答した人数は、それぞれ2名と9名(薬局販売員も含め)と少なく、地域住民健康ケアへの薬局薬剤師の役割に関する啓発および更なる活動の拡大が必要と考えられた。しかし、「かかりつけ薬局」の必要性は、「現在持っている」と「現在持っていないが、今後持たたい」を合わせると26名となり、薬局薬剤師が地域住民の健康ケアへ関与することを受け入れる期待は大きいと考えられた。

謝辞

本論文を作成に当たり、貴重なご助言を頂きました真壁病院の理事長の真壁道夫氏、院長 羽根田潔氏、アスカメディカルの菅原博敏氏に、感謝いたします。

文献

- 松井香奈ら, 2004, 和歌山県における門前薬局の取り組み, 日本薬剤師会 37回学術大会講演要旨集, 37, 216
 山田純一朗ら, 2005, 吉岡宏, 佐藤洋平, 渡邊太朗, 松井都世子, 白野陽生, 地域住民に信頼される薬剤師を目指した支部広報委員の取り組み, 九州薬学会会報, 59, 85-90